



ミサに来てほしい①


 やまもと まこと
 山元 眞 神父

ミサに来てほしい、というのは神父の望みではなくて、神さまの望み。

どのようにしたら、この神さまの望みが実現するのか。神父も信者も一緒に考えていきたい。司祭になって二十八年目。いつも考えてきたこと。自分もまだ実行できていないが、気づいたことを列挙したい。(順不同)

① **ミサが始まる前、終わった後に聖堂の前で挨拶する**

挨拶は当たり前のことだが結構ばたばたしてできていないことが多い。以前いた教会である方から言われた。「神父さんどうして信者が喜んでミサに来ると思いますか。説教が上手とか下手とか：そんなことではなくて

神父さんが笑顔で迎えてくださるからですよ。それだけでも信者は喜んでミサに来ます。」

祭服を着てミサの準備ができたら聖堂入口に行き、信者を迎えながら始まりの時間を待つ。そこから待者と聖書朗読者と一緒に入堂するようにしている。

② **ミサをていねいにささげる**

ミサは祈りだが、その言葉はほとんど決まっている。特に「奉献文」などの司祭が唱える祈りは、毎度同じ言葉を繰り返す。それだけに、習慣的にならないように気をつけ、ここを込めてゆっくりと、はっきりと、大切に：「これが最後のミサ」のような気持ちで唱える。ミサの一つひとつの動作も大切に

二十八年の間ほとんど毎日ささげてきたミサ。その動作は磨きがかかっているはず。頭のてっぺんから足のつま先まで：動作はこころが伴った美しいものでありたい。

③ **決まったところは決まったように**

ミサの典礼には総則や細則と決まった決まりがたくさんある。これは教会が長い伝統の中で培ってきたもの。すべてに意味があるし、教会の望みが詰まっている。たとえば沈黙の部分。「祈りましょう：」と呼びかけた後や神の言葉（聖書の朗読など）を聴いた後には沈黙の時が求められる。沈黙しないと祈れないし、言葉を味わうことはで

きないから：これは当然のこと。司祭はミサの総則や細則を「プロ」として熟知しているはず。司祭にとって「典礼」は好き嫌いや興味の問題ではなく、神の思いを表現する大切な方法だと思おう。

④ **選ぶ**

決まったことが多いとはいえずべてがそうではない。感謝の賛歌の後の奉献文にしても、いくつかのものを選んで祈ることができる。おそらく、ほとんどの教会では「第二奉献文」が使われていると思う。その理由は：短いから!? ゆるしを求める奉献文や子どものミサのための奉献文など、美しい祈りがたくさんある。その日の典礼に合っ

たものがあれば、それを選ぶことによつて、より心を込めて祈ることができるのではなからうか。

⑤アドリブ

ミサにはいろんな決まりごとがあるが「アドリブ」の部分もある。「アドリブ」というと、何か自由勝手に気ままに…という印象があるが、「自由にできる」ということ。ミサはガチガチに固められたものではなく、心に染み込んでいくもの。そのためには「自由な」部分が役に立つ。ミサのテキスト（ミサ典礼儀式書）には小さく赤い字で「たとえば次のように言う」という注意書きがある。そのようなところは自由にできるところだが実際は「たとえば…」として上げられている「例文」がそのまま決まった言葉のようにして使われている。ミサの導入は「アドリブ」のできるのだが、その言葉はいつも同じ…。残念なこと。

⑥信者の生活状況を考慮する

司祭は聖堂まで一分以内で着く。しかし、信者は聖堂に来るまでたくさんのことを済ませて

来なければならぬ。時間がかかる。家族で一人だけ信者の場合などはもつとたいへんなのかもしれない。小さい子どもがいるところや、高齢者の方のお世話をしなければならぬ家族はミサに出かける準備もたいへんだと思う。今の教会に赴任して初めてのミサのとき言った。「ミサに遅れてこられても気にされなくていいですよ。それぞれ事情があるでしょうから。信者の皆さんも遅れて来られる方に対して、そのような気持ちをもつてください。」その最初のミサの後、複数の方から「神父さん気持ちが悪くなりました」と言われた。「甘やかせて！」という声が聞こえるような気がするが大切なのは、愛と信頼。神父がそう言ったからといって喜んでミサに遅れる方はいないでしょう。

ミサに遅れる方はめったにいない。それだけに、遅れた方がおられる時は、よほどの事情があるのだろうな…と思う。ましてや、怒りの気持ちなどは毛頭ない。

⑦説教

自分は気をつけないと早口になったり、ほそほそと語ったりするくせがある。毎週の説教を教会のホームページで聴けるようにしているが、聞き返しているもそう思う。まさに恥を忍んで載せている。決して話が上手ではないし、表現もうまくはない。では、なぜ自分の説教を公にしているのか…。イエスの福音の一部分でも伝われば…という思いがあるから。それだけ。だから、その日のミサで使われる三つの祈願文、読まれる聖書の言葉、答唱詩編、共同祈願などに目を通して説教の準備をする。外国人の方もミサに参加しているので片言の「英語でしゃべらナイト」を実行している。三分。これはけっこうきついことだが、海外でわかる言葉に出会うことはとても安心できることだから…。

神父が喜ぶとか、悲しむとか…ではなくて、どのようにしたら神さまが喜ばれるか…来月号に続きます…。

【ブログ [http://](http://micheleyam.exblog.jp/)

micheleyam.exblog.jp】



株式会社 吉本洋紙店

本店 〒104-0041 東京都中央区新富2-7-4

☎03(3551)4141(代)/2143 FAX03(3551)3939

厚木支店 〒243-0807 神奈川県厚木市金田1017

☎046(223)6931 FAX046(223)6930